

福岡中学校・馬出小学校改築工事設計者基本設計プロポーザルの審査結果について

1. 審査結果

・最も適した設計者:Mグループ

(建築設計者)

昭和・俊設計共同企業体

代表構成員:株式会社 昭和設計 九州事務所 所長 荻野 恵悟

構成員:株式会社 俊設計 代表取締役 吉田 俊文

(設備設計者)

有限会社 システムプラン 代表取締役 森 良一

・次点者:Jグループ

(建築設計者)

あい・Hiro 設計共同企業体

代表構成員:株式会社 あい設計 九州支社 支社長 前田 隆志

構成員:株式会社 Hiro 建築設計 代表取締役 金子 浩美

(設備設計者)

株式会社 衛星都市計画 代表取締役 福澤 匠

2. 選定委員会開催日程

・第1回選定委員会

令和7年11月18日(火)

〔 設計プロポーザルにおける審査、技術提案書評価及び求める提案課題並びに参加資格について審議を行い、審査方法など基本的な事項について決定。 〕

・第2回選定委員会

令和7年12月16日(火)

〔 配置する主任担当技術者の資格並びに管理技術者及び主任担当技術者の実績について、書類審査による一次審査を行い、二次審査対象者3者を選定。 〕

・第3回選定委員会

令和8年1月29日(木)

〔 二次審査に向け、ヒアリング項目について意見交換。 〕

・第4回選定委員会

令和8年2月6日(金)

〔 技術提案書に記載の業務実施方針及び評価テーマについてのヒアリング並びに業務価格による二次審査を行い、最も適した設計者を選定。 〕

3. 一次審査(100点満点)

参加表明書を提出した5者をJ～Nグループとして、各グループの参加資格及び「資格(主任担当技術者の専門分野の技術者資格)」「技術力(各技術者の業務実績)」の評価点の算定結果について、事務局が選定委員会へ説明を行った。

選定委員会は事務局の説明内容を確認のうえ、上位3者を二次審査参加者として選出することを決定した。

【一次審査の評価点】

順位	1位(Jグループ)	2位(Lグループ)	3位(Mグループ)
評価点	85点	72.75点	70点

4. 二次審査(120点満点)

二次審査参加者が提出した技術提案書に基づいてヒアリング(プレゼンテーション15分以内、質疑応答15分以内)を実施した。

各選定委員は、「業務の実施方針」「業務の実施体制」「業務の実施工程」「評価テーマ」について採点した。

事務局にて各選定委員の評価点の集計を行い、「資格・技術力(一次審査評価点の15%)」と「業務価格」の点数を加えたものを、各グループの評価点の合計とした。

選定委員会は、評価点合計の最も高いMグループを最も適した設計者、次に点数の高かったJグループを次点者として選定することを決定した。

【各グループの評価点】

評価項目	配点	評価点						
		Jグループ		Lグループ		Mグループ		
資格・技術力 (一次審査の15%：小数点第三位以下切捨て)	15	12.75		10.91		10.50		
		平均	合計	平均	合計	平均	合計	
技術提案	業務の実施方針	20	11.42	80	12.14	85	13.57	95
	業務の実施体制	20	10.71	75	5.71	40	12.85	90
	業務の実施工程	20	11.42	80	8.57	60	12.14	85
	テーマ	40	25.71	180	22.85	160	27.14	190
技術提案小計	120	59.26	415	49.27	345	65.70	460	
業務価格	5	5		5		2		
評価点合計 (技術提案は平均点)	140	77.01		65.18		78.20		
順位		2位		3位		1位		

※技術提案の平均点は、小数点第三位以下切捨て。

5.審査講評

Mグループ(選定者)

【業務の実施方針】

- ・地域利用時や災害時などに、メインアリーナと学校エリアを容易に分離できる提案が有効と評価された。
- ・ZEB ready取得に向けた提案が具体的で効果的と評価された。
- ・広い運動スペースを確保しつつ、延床面積を削減しコストを縮減する提案が評価された。

【業務の実施体制】

- ・教育施設づくりの専門家や技術者を配置する体制が効果的で実効性があると評価された。
- ・木材アドバイザーの活用、学校全体を木育教材とする具体的な提案が評価された。
- ・環境負荷の少ない材料や更新時期を統一できる材料を使用するという提案がライフサイクルコストの削減に効果的と評価された。

【業務の実施工程】

- ・設計初期段階からコストチェックや、学校関係者へのヒアリング等を行う提案は業務を理解していると評価された。
- ・ワークショップのテーマ設定は、実効性があると評価された。
- ・相互理解の祖語を防止する提案が効果的であると評価された。

【テーマ】

「限られた敷地の中で小中学校機能の集約化と一体的な連携教育を実現するための施設計画」

- ・小中の連携方針に合わせ、特別教室の配置を柔軟に変更できる提案は実効性があると評価された。
- ・同属性教室を対面させることによる廊下の利用を提案している点が独創的と評価された。
- ・中学校ブロックと小学校ブロックでオープンスペースの使用方法を区別した施設計画が評価された。

Jグループ(次点者)

【業務の実施方針】

- ・物価上昇を加味したコスト管理の提案が具体的で実現性が高いと評価された。
- ・現場条件を踏まえ、施設配置を複数提案している点が効果的と評価された。
- ・近隣住宅地への影響を配慮した提案が効果的と評価された。

【業務の実施体制】

- ・専門家と協働し、旧動物園の門の保存などの屋外空間を整備する提案が評価された。
- ・ZEBプランナーを活用し、技術・コスト面から実現性の高いシステムを構築する提案が効果的と評価された。
- ・小中一体校の設計経験がある技術者が配置されていない点を懸念する意見があった。

【業務の実施工程】

- ・明確なマイルストーンに基づいた工程は実効性があると評価された。
- ・ワークショップのテーマを実施効果の高いものに限定する提案が効果的と評価された。
- ・学校や地域との協議手法については効果的という意見がある一方で、スケジュール的に難しい面が出て来るのではと懸念する意見もあった。

【テーマ】

「限られた敷地の中で小中学校機能の集約化と一体的な連携教育を実現するための施設計画」

- ・中1ギャップの解消やケアが必要な子供たちに配慮した配置計画が効果的と評価された。
- ・児童広場の配置、屋外各所を見渡せる諸室の配置等、安全性を意識した施設計画が評価された。
- ・アリーナ・サブアリーナの配置について独創的な提案であるものの、有効性の説明が不十分との意見があった。

【グループ】(非選定者)

【業務の実施方針】

- ・現実的なコスト削減や工期縮減の工夫をする提案は実効性があると評価された。
- ・街路への圧迫感を低減し、地域活動に利用しやすい配置計画が評価された。
- ・廊下や階段などを含め、活動空間を学校全体に広げる提案が独創的と評価された。

【業務の実施体制】

- ・積算・構造部門を含めた設計チームの構築は、効果的で実効性があると評価された。
- ・ZEB Ready達成に向けて設備設計と連携し、実現性の高い手法を検討する提案が効果的と評価された。
- ・設備設計の役割分担が不明瞭で、建築設計との連携が上手くいかないのではないかと懸念する意見や、設計チームと他のチームとの連携が具体性に欠けるとの意見があった。

【業務の実施工程】

- ・費用対効果の検討に関する提案が実現性が高いと評価された。
- ・打ち合わせ記録の「見える化」を徹底することで相互認識のずれを防ぐ提案が効果的と評価された。
- ・ワークショップについて具体的な提案があると良かったとの意見があった。

【テーマ】

「限られた敷地の中で小中学校機能の集約化と一体的な連携教育を実現するための施設計画」

- ・学び、交流の核となるような特別教室の配置計画は、独創性があり付加価値があると評価された。
- ・避難所機能と教育機能を明確にゾーニングし、災害時に早期の教育活動再開を可能とする施設計画が評価された。
- ・地域開放を想定し、諸室を集約した断面計画は機能的で使いやすいと評価する一方で、セキュリティが不十分ではないかと懸念する意見があった。